



8月になってコロナ感染症が急増しました。子どもたちが感染するケースも増えてきているので心配ですね。また、お盆には佐賀で豪雨があり、大きな被害も出ています。児童生徒の皆さんや先生方は大丈夫だったでしょうか。

いろいろな不安を抱えながら二学期を迎えますが、児童生徒の安心安全を第一に、充実した学習ができるよう共にがんばりましょう。

体育祭・運動会などの配慮について

体育祭や運動会が既に終わった学校もあると思いますが、これからというところもあると思います。開催の仕方がこれまでとは変わるとは思いますが、見えにくさのある児童生徒への配慮についてまとめてみました。

○徒競走について

見えにくさのある子ども達が徒競走で困るのは、ラインやゴールなどが見えにくいことだと思います。特に走順が後のほうになると、コースのラインが消えて分かりにくくなることも多いようです。そのため、走順を早めにしたり、ラインを引き直したりするなどの手だてを取ることによって、走りやすくなると思います。またゴールについては、目印になる目立つ色のコーンなどを前方に置いたり、ゴールテープを持っている先生が声で知らせるあげたりすると分かりやすくなります。



○体操やダンスについて

体操の動きやダンスの振り付けをする際には、見えにくさのため模倣ができていくことがあります。そのため具体的で丁寧な指導が必要です。「右腕をのばして肩の高さまであげて」など具体的に説明したり、手をとってからだを動かしてあげたりするなど、個別の練習が必要になる場合があります。また、一番前にしたりせず、お手本にしやすい子どもの後ろにするなど場所の配慮も大切です。



○リレーについて

リレー形式の競技で難しいのは、バトンパスです。バトンの受け渡しの時に前後のランナーに声かけをしてもらい、もらうときも渡すときも知らせるようにします。また、先生が前走の子の場所やパスのタイミングなどを声で知らせてあげることも必要です。

チームごとに色の違うビブスを着用して、同じチームの人がはっきり分かるような手だても大切です。

○応援について

応援席で応援する際にも、見えにくいことで、何が行われているのかわからないことがあります。横にいて、現在の競技を説明したり、可能であれば競技が行われている近くまで一緒に移動したりすることで、楽しく応援をすることができると思います。



○その他

上記のほかにも様々な配慮が必要となることがあると思います。特にまぶしさ対策は重要です。つばのある帽子の着用や遮光眼鏡の装着があります。また、日かげやテントの中で休む時間を確保するというのも大切です。

運動会・体育祭は学級単位の体育の授業と違って、活動が学年や学校全体など大きな単位で行われることがあるため、見えにくさや経験不足などから、競技に対して恐怖心を持ったり消極的になったりする場合もあると思います。どんな場合でも見えにくさのある児童生徒の気持ちを大切に手立てや配慮を行いましょう。



視機能検査について

目の機能を調べる検査のことを「視機能検査」といいます。人は目から得られる情報が全体の8割以上を占めているともいわれるほど、視覚情報は大切な情報になります。視力はどれくらいなのか、視野に問題は無いのか、色覚は正常かなど、現在の自分の視機能について知っておくことは、生活にも役立てることができる大切なことだといえます。

視力検査

通常の視力検査は、5mの距離で測定します(遠距離視力検査)。学校ではABCDで結果を表しますが(370方式-下に説明あり)、見えにくさのある児童生徒については、きちんと

視力値を出した方が良くと思います。

検査には原則的に万国式試視力表で測定します（主に、ランドルト環というアルファベットのCのような文字指標を使用）。

見えにくさのある児童生徒や発達障害のある児童生徒には 0.1 未満の指標を含む「字一つ視力検査用の指標（ランドルト環単独指標）」を使用し、両眼視力を含む視力検査をする方法があります。見る情報が精選されていて検査に臨みやすくなっています。

視力検査を行う場合には、事前に上下左右の概念ができていないか、それを正しく伝えることができるかなどの確認が必要です。口頭で答えるのが難しい場合は指さしやランドルト環ハンドル（右図）というものを使用します。

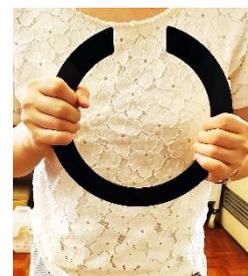
この他に、事前に練習を行ったり、児童生徒が疲れていない時間帯を選んだりといった配慮も必要です。

また、5 mの検査距離が取れなかったりした場合には、測定距離の変更によって視力を算出します。測定距離を短くしながら指標が見えるかを測定し、（見えた指標）×{（測定距離）／（基準距離）}で視力を算出します。

もし、4 mの距離で0.1の指標が見えた場合、 $0.1 \times (4 / 5)$ で視力が0.08となります。

その他に、教科書などの文字を読む時の視力を調べるために、30 cmの視距離で測定する近距離視力検査もあります。近距離視力と遠距離視力はだいたい同じくらいの値になることが多いのですが、値が違う場合は屈折異常の可能性があり、専用の指標を使用することなどもあり、近距離視力検査を行う学校は少ないのですが、近距離視力が学習上の問題の原因ということもあるので、必要に応じて実施した方が良くと思います。

学校で視力検査を行う場合、実際に測定するのは養護教諭の先生だと思いますが、検査をどのように行うか、児童生徒の検査への臨み方など把握しておいた方が良く多いので、ぜひ立ち会うようにしてください。



ランドルト環ハンドル



ランドルト環単独指標

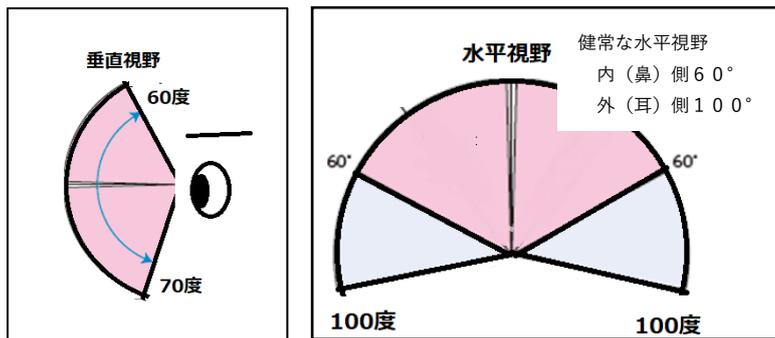
370方式

- A・・・（矯正視力1.0以上）
 - B・・・（1.0未満0.7以上）
 - C・・・（0.7未満0.3以上）
 - D・・・（0.3未満）
- ・A以外は、眼科受診の勧告対象
 - ・D群は、最前列でも黒板が見えにくく、教科書の活字も見えにくい場合がある

視野検査

視野とは大まかに言うと目を動かさずに見える範囲のことです。視神経が障害される

ことなどで視野が欠けたり狭くなったりします。視野検査はそういう視野異常の有無や程度を調べるために行われる検査です。

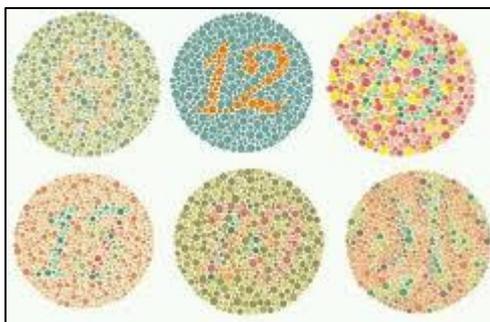


視野の部分欠損の例

視野は視野計という機器を用いて検査します。機器に加えて相応の測定技術が必要なため、検査はほとんど病院で実施されます。集中力が必要となる検査のため、児童生徒の実態によっては検査が難しい場合もあります。

児童生徒が受診した際に視野検査をする場合は、保護者に結果を確認してもらい、それを連絡してもらいます。

その他の検査



石原式色覚異常検査表

「最適可読文字検査」(学習や読書に適した文字サイズ)、色覚検査表を用いて色が識別できるかどうかをテストする「色覚検査」、目が正しい位置にあるかを調べる「眼位検査」、目の動きをチェックする「眼球運動検査」などがあります。

日頃の指導で悩まれたり、困られたりしていること、「こういう資料がないか」などがありましたら、お気軽にご連絡ください。

巡回相談の依頼も受け付けています。

佐賀県立盲学校 電話 (0952) 23-4672

代表メール mougakkou@education.saga.jp

FAX (0952) 25-7044

ゆうあい担当 miyata-yoshihiro@education.saga.jp